No. 72

主な記事

ホルモンの話……1
インド赴任に際して……3
蚕糸繊維化学の最近の研究 4
Salon ……5
創立50周年記念事業の大綱決定 …7
会員の近況，母校だより …9
千曲会告知板

千曲會報

1957年11月1日

昭和32年11月1日発行
長野県上田市常入
信州大学繊維学部内
編集兼発行人 小山長雄
信州大学繊維学部内
発行所 社団法人 千曲会

昭和31年6月18日第3種郵便物認可　毎月1日発行　定価1部15円

ホルモンの話

蒲生俊興

1. はしがき

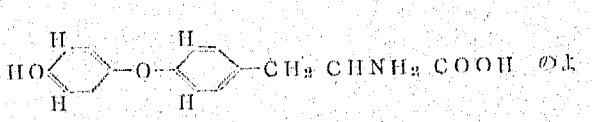
動物体を構成する各器官は皆夫々の特徴ある機能を果すことによって各個体の健康が維持されるわけではあるが，夫等の各器官が何等の協調も連絡もなく，皆思い思いの生理作用のみに猪突猛進するようでは千変万化する外界の凡有る環境に処して，却て動物体の健康を損ねることになるのは当然である。いわば1個体は之を組織する多種類の器官から構成された一種の社会のようなものであって，その社会の健全な発達を遂げるためには，各組織員の統制と連絡調整とが絶対に必要なのである。各器官が個人主義に堕し，各々無責任な自由気儘のみを標榜するようでは，到底健康体は形造れない。即ち生活体そのものに就ては，猶全体主義的の統制が依然として行われているわけである。

然らば生活体内では如何にして各器官の協調連絡が行われているかというに，一方では神経系統によって，各器官の生理機能が調整せられているが，他方では体液内に溶出された特殊な化合物が血液と共に全身を循環することによって，各器官の機能が調整せられている。即ち後者のような体内を循環する化合物が所謂ホルモン（*Hormone*）と総称されているのであるが，この場合ホルモンとはギリシャ語のホルマオー（刺戟する，興奮する意）なる語から出来たもので，今世紀の初め頃 BAYLISS や STARLING (1904) によって初めて提唱された術語である。

広義のホルモンは生理学上2種に区別されるが，その一は生成の場所が特定されず，全体として新陳代謝の産物として発生した物質が，体内諸器官の協関に与る場合で，例えば筋肉収縮の結果発生する炭酸瓦斯の如きものが血行中に入って延髄の呼吸中枢を刺戟して呼吸頻度を大ならしめる作用がある場合の如きは，一種の広義のホルモンに属し，特に *Histohormone* と称する。他の場合は体内に存在する無導管腺（又は内分泌腺）の内で形成せられた特殊の化合物が，血液中に入り発育中諸器官の機能の調整に関与するものを狭義の *Hormone* といわれている。尤もこの外に食物から摂取されたビタミン類の如きものもホルモンと同様に，微量で有効に各組織器官の機能を調整する作用があるが，ここには触れないことにする。

2. ホルモンの特性と一般作用

凡て内分泌物の生理的機能の物質は第1に極めて少量でも有効であり，例えば千分の1～5*mg*位の甲状腺ホルモンの注射で明かな効果が現われる如きである。第2には化学的構造が比較的簡単であること。例えば甲状腺ホルモンのサイロキシンの構造式は



のような沃度の化合物である。第3には動物の種類が違っても，器官の種類が同じならばホルモンは共通の場合が多いこと。第4にホルモンを体内に注射しても，血液中に抗体を形成することがないこと。第5に血液中で比較的速く分解されること等である。

すべて動物体は体内の環境条件例えば体温，脈搏，血液水素イオン濃度や血糖量等を，常に一定に保とうとして居り，この現象をホメオスタシス *Homoeostasis* といわれているがそのためには，その機能の中枢が必要であり，その命令によって，或種の内分泌腺から分泌されたホルモンが，血行と共に必要とする組織器官に直接作用して，細胞内の酵素を支配し，これを促し又は抑制する機能を有っているものと考えられている。只この場合にホルモンは酵素系そのものに働くのではなく，寧ろ生体組織に働くものと着做されている。酵素自体は勿論ホルモンがなくとも，一定の基質と条件が具われば自然に働いて細胞内に於ける炭水化物，脂肪，蛋白質等の代謝作用を行うが，この場合ホルモンは生きた細胞膜を透して，細胞そのものに働くのであるから，生体組織を磨砕してホモジェネート *Homogenate* としたものでは，酵素作用はあってもホルモン作用は現われないのである。

尚副腎ホルモンたるアドレナリンなどは，交感神経の末梢に作用し，神経を介して2次的に組織器官に効果を及ぼす場合もある。一般にホルモンの作用は一定不変のものではなく種々なる環境によって常に変異している。例えば甲状腺ホルモンのサイロキシン *Thyroxin* の如きは Ca^{++} イオンによってその作用が抑制せられ，K^{+} イオンによって促進せられる。又pH価7.0以上ではその作用が停止せられ，pH6.4—7.0附近では最も好適に作用するといわれている。

3. 内分泌腺とホルモンの種類と作用

人体又は哺乳動物では，次の様な多くの内分泌腺から独特のホルモンが内成分泌せられて，極めて複雑な生理的調整機能を行っているが，近年各ホルモンの化学的構造式まで漸次明かにされて来た。

内分泌腺名	ホルモン名	主なる生理作用
甲状腺	サイロキシン…	各組織の酸化作用を助長し，新陳代謝を促進することによって幼少時代の生長と諸器官の発達に関係する。

副甲状腺（上皮小体）	上皮小体ホルモン（パラトルモン）	テタニーと称する一種の症状を防ぐ作用がある。
脳下垂体	前葉 プロラクチン（ガラクチン）	生長，生殖腺，甲状腺，副甲状腺，膵臓，副腎等のホルモン分泌を調節する。
	中葉 インテルメジン	色素細胞，体水分の調節
	後 αヒポファミン（ピトチン）βヒポファミン（ピトレッシン）	子宮平滑筋，血管収縮作用
松果腺	未確定	幼年期の生殖器の異常生長を防止する。
胸腺	未確定	幼若児の生育を促進し，骨軟化を防ぐ。
副腎	アドレナリン（エピネフリン）	交感神経の作用を強め，各種器官の機能を調整し肝臓中のグリコーゲンを糖化して血糖を増す。
膵臓	インシュリン	血糖の代謝に関係し，筋肉や肝臓内のグリコーゲンの形成を助長して糖尿病を防ぐ。
睾丸	アンドロステロン	精嚢と性器を発達せしめる。
卵巣	エステローン	女性の性週期を発現せしめる。
	プロゲステローン	妊娠を助け，乳腺を発達せしめる。

上表に明かなる如く，各内分泌腺より分泌されるホルモンは夫々成分を異にすると同時にまた之の特殊の機能をもっているが，脳下垂体前葉からホルモンは他の内分泌腺に対して上位的に働き夫々の内分泌腺の機能を調整するように観える。

かくの如く哺乳動物のホルモンに就いては，可也古くから研究せられ，例えばアドレナリンの如きは，早くも高峰博士が1901年に之が純粋分離に成功せられたが，やや下等な動物のホルモンに就いては，グーデルナッシ(1912—16)がオタマジャクシに於ける甲状腺が生長に対して，促進作用があることを発見したのに始り，又無脊椎動物に於ても，1920年頃から着々と実験研究が開始せられ，例えばコペク（1922）は昆虫の変態に対する脳の関係を研究し，更にコラー（1938），ブーンニオール（1938），ハンシトレーム（1939），ウイグルスワース（1939）等の研究で漸次無脊椎動物のホルモン作用が明かになった。殊に近年甲殻類の着色作用に対してブラウン（1952），昆虫類ではシャーラー女史（1952），やウイリアムス（1951），福田（1950），等の研究で，その変態生理に対するホルモン作用が明かにされた。ことに最近ブーデナント（1953）によって，昆虫体に於ける之等の変態ホルモンの化学的構造が明かにされるに至った。

今日迄に昆虫類殊に蚕について判明した内分泌腺とそのホルモン作用を表示すると次の通りである。

内分泌腺名	ホルモン作用
脳（神経分泌細胞）	脳からのホルモンが前胸腺やアラタ体を刺戟して夫々のホルモンを分泌せしめる。
食道下神経節（同上）	脳からの刺戟によって蚕の化性決定ホルモンを分泌する。
アラタ体	幼若ホルモン即ち蚕児を就眠せしめて幼虫脱皮を行わせる。
前胸腺	変態ホルモン即ち蚕児を蛹化せしめ，変態を行って成虫化させる。

尚この外に昆虫体内には多数の扁桃細胞，周気管細胞，囲心細胞，脂肪細胞などがあるが，之等の内分泌作用は未だ明かでない。又ブーデナント博士の研究では，之等の変態ホルモンは昆虫の種類によって特殊なものではなく，略ぼ共通に作用するといわれ，同博士が約100万個（80万円）の蚕蛹（1.6トン）を材料として，変態ホルモンを採取して分析した結果，一種のアルコールでα・β不飽和ケトン基を持っていることが確実にわかり，その原子比率は $C_{4.4}H_{7.3}O_1$ であるといわれる。而もかくして分離された結晶性物質を1個体当り10—12ガンマーを注射すれば，脳を除去した蛹や分離された腹部に蛹化現象を起させることに成功したことから，この結晶性有効成分が前胸腺ホルモンと同一であることが証明されるに至った。

4. ホルモンによる細胞内代謝の調整

以上縷説した如く，各種のホルモンは夫々独特な代謝作用を調整する化学的な使者だともいわれ，各組織器官内に於ける特定の酵素作用を促進したり，或は抑制したりして，細胞内代謝機能に対し，密接な関係を有っているわけである。

即ち(1)糖質代謝に対するインシュリンやアドレナリンの作用は可なり明かにされているが，(2)蛋白質代謝に対しても甲状腺ホルモンであるサイロキシンや膵臓ホルモンのインシュリンなどは組織内での蛋白質の合成を促進する作用があるといわれ，又(3)脂質代謝の面では通例糖尿病の場合に脂肪酸の合成が減じ，逆にケトン体やコレステロールの合成が増して来るのをインシュリンは之等の作用を制止して，脂肪酸の合成を促すものと考えられている。

家蚕幼虫に於て，第4眠以前にアラタ体を除去すれば，前胸腺からのホルモンが主として働くことになるから，蚕児は就眠することを中止して，直ちにその齢が幼虫期の最終齢となって，経過日数は2，3日延長し，体内に於ては，先ず絹糸腺の急速な成長を見るようになり，而も熟蚕となつて営繭を始めると，幼虫器官であった消食管の如きは，第一に解離作用を受けて，体内で漸次消失して行くと同時に，幼虫体に存在している成虫器官の原基例えば翅腺や生殖腺のような成虫盤が急激な細胞分裂を惹起するようになる。之と同時に蚕体内の脂肪細胞内では特にビタミンの合成が行われ，又デアミナーゼ，リパーゼ，グリコゲナーゼなどの諸酵素作用が賦活せられ，脂肪細胞内では俄然，変態中の栄養供給のための諸代謝作用が旺んに行われるようになる。

5. ホルモンと生命現象

以上縷述した如く，ホルモンはビタミンや酵素作用の上位に立って之を支配し，更に交感神経にも影響を及ぼして，間接的に諸組織の生活作用を調整する。即ち各種のホルモンは栄養素の代謝に与るばかりでなく，性機能の発現から，最近の研究では，精神作用とも密接な関係があることも明かになっている。例えば温，湿度その他の外的要因ばかりでなく，恐怖とか，心配とかいうような感情も亦ホルモンの分泌に重要な影響を与え，特に脳下垂体ホルモンを介して副腎皮質ホルモンの分泌に影響し，引いて，色々な神秘的な精神現象にも何等かのかかわりを有する所からホルモンが生命現象の根源であるかの如く認める学者もある。

之に加えて，種々な遺伝因子（*Gene*）が内分泌腺のホルモン分泌作用を支配する場合が多く，例えば3眠蚕ではその遺伝子の影響によってアラタ体の作用が第4齢の初期で休止す

るから，第4齢が4眠蚕の第5齢のような生長を見ることになる。又柞蚕蛹のように休眠期蛹態のまま越年する遺伝質を有する種類では，蛹の脳細胞からのホルモン分泌を制御する遺伝子があって，休眠（*Diapause*）状態で，成虫化作用が休止のままで越冬するが，かかる休眠脳が一定の低温刺戟に感触すると越冬，脳のホルモン分泌作用が活性化せられて，前胸腺を刺戟して，成虫化ホルモンを分泌せしめ，休眠蛹体内にサイトクロームCの如き呼吸酵素が合成せられ，翌春の温暖に接触すれば直ちに発育を開始するという機構になっている。

此の如くホルモンの内でも，特に生物体の形態の調整に与るものをホルモゾーン（*Hormosone*）として区別する者があるが，この場合はホルモンが細胞内に於ける所謂細胞質遺伝子（*Plasmagene*）との関連のもとに形態や色彩に変化を及ぼすわけである。

又昆虫の発育などの場合に種々な環境条件例えば不適当な高温，低温又は揮発性瓦斯などへの接触が往々アラタ体や前胸腺のホルモン分泌作用に影響してホルモンの不均衡を来し屢々絹糸腺の発育上溢れ目などを生ぜしめて，所謂不結繭蚕の原因をなす場合があることは，最近福田博士（1955）が指摘している所である。

6. 結　　び

要するにホルモンの効果は同種器官，同一機能に対しては動物の種属を越えて有効とされるから，他動物の内分泌腺を移植したり，或は純粋に分離されたホルモン剤を皮下注射をしても，効目のあることは周知の事実である。今後は昆虫類のホルモン作用が漸次生化学的に究明されるに従い，家蚕の飼育などに対しても重要な効果を挙げうる日も近かろうと思う。以上は今日迄に判明している生理学上の知見を基としてホルモンに関する常識的な話を誌し，聊か御参考に供した次第である。

（蚕1）

インド赴任に際して

（蚕2）　唐　沢　正　平

私が日本の蚕糸業者も東南 Asia の経済開発に協力して，蚕糸業界の行き詰りを打開する必要があると考えたのは，1955年の秋だった。その11月新宿御苑で白雪会の青年諸君が青天井の下，芝生の上で怪気焔を上げた中で，一言話したのが私の意志表示の最初であった。1956年2月Asia蚕業技術開発協会と，日本 Silk Center の設置についての構想を pamphlet で発表し，9月偶々 Asia 協会事務局長本位田祥男博士に，之が説明と共に，私の過去40余年の蚕糸業の経歴を語った処，"丁度現在 Ind 政府から Colombo plan による顧問技術者の招聘要請があるから引受けろ"，と強勧された。4月Asia協会に蚕糸業委員会が創立し幹事長として委員会を運営していたが，其の後，何の音沙汰も無いので殆と絶望と思っていた。処が本年5月再び話があった。しかし又仲々返事が無いので諦めねばと考えていたら8月30日外務省から電話で Ind政府が O. K. したと知らせて来た。1日も速く赴任せよとのことで，10月2日羽田発 BOAC機で New Delhi 行きと決定した。Colombo plan の専門家A格で養蚕指導となっているが，内容は Bombay, Madras, Mysore, West Bengol, Kashimire, Assam 等各地を巡って官吏や技術員の養成，訓練，研究指導等が任務であるようだ。現在毎日出発準備で追われておちついて執筆も出来ぬが折角の御申越であるから乱筆して，責をふさぐ次第です。何卒今後共皆様の御支援と御指導を願います。終りに皆様の御健康を祈ります。（9月11日）

（Asia協会
蚕糸業委員会幹事長）

◎　第18回千曲会定期総会のお知らせ

下記のように総会，役員会，並に監事会を開催します。この総会にはいよいよ一昨年来の懸案となっていた50周年記念事業を決定したり，その他重大な問題が論議されますので，代議員，役員は勿論一般会員の各位も充分御注目下さい。この総会を契機として，一層同窓愛を高揚し，引いて50周年記念事業への意慾を盛り上げるよう全会員の御協力を乞います。

1）定期総会について
　1）日　時　11月23日(土)勤労感謝の日　午前10時
　2）会　場　母校会議室
　3）議　題　（本部提案）
　　イ）昭和31年度決算　33年度予算について
　　ロ）50周年記念事業について
　　ハ）賛助員の推挙について
　　ニ）その他
　4）各支会に於かれては，代議員の出席，支会提出案の用意等について御手配下さい。

2）役員会について
　1）日　時　11月23日(土)勤労感謝の日　午前9時
　2）会　場　千曲会館
　3）議　題
　4）役員各位は御繁務中とは存じますが出席御準備を願います。

3）監事会について
　1）日　時　11月22日(金)午後1時
　2）会　場　千曲会館
　3）本会業務執行及び財産状況監査
　4）監事各位は当日印章御持参下さい。

特別活動資金の募集について

御承知の如く，同資金は就職斡旋事業を推進し大いに会員の福祉増進をはかるためのものでありまして，全国各支会から選出された就職斡旋委員の協力を得て，本資金を以て本格的な活動を開始し，既に多数の会員の斡旋に成功し，着々成果を挙げております。しかるに当初予定額に比べて未だ3割程度の応募金額に過ぎません。未だ御醵出なき方は事情御賢察下さいまして至急に御醵出の程お願いいたします。

蚕糸・繊維化学の最近の研究

ナイロンの黄褐変について

Fred. H. Steiger ; Tex. Res. J. 27, 459(1957)

最近ナイロンのワイシャツ，ブラウス等が相当出廻るに従つてナイロンの黄褐変について多くの人が経験されている事と思う。業界にあつてもこれが相当問題になつており，これが対策に腐心している。

絹糸のこれについては既に長年にわたつて官民の研究陣を挙げて研究されて来たが未だ決定的防止法は発見されていない。この研究途上絹糸よりもナイロンの方が遙かに黄褐変し易い事が指適されておつたが積極的な研究は行われていなかつた。

著者は熱硬化性フオルマルデヒド樹脂処理を施したナイロンが処理によつて，黄褐変を増大する事に注目し，黄褐変が仕上げの方法によるものか或は樹脂によるものか，又ナイロン自身にあるのか種々研究の結果ナイロンの末端アミングループが関係している事をつきとめ，これに尿素を反応させてブロッキングする事により黄褐変を防止する事に成功している。尿素処理ナイロンを Ureido-Nylon と名付け，これと無処理のナイロンの黄褐変を比較するに熱処理をもつてしその温度と時間の関係から

$$Nylon\ \log t\ (min.) = \frac{6530}{T\ (^{\circ}k)} - 13.4$$

$$Ureido\ N.\ \log t (min.) = \frac{7260}{T\ (^{\circ}k)} - 14.9$$

なる式をみちびき，両者を100°Cに放置した場合 Nylon が9日で達する黄褐変程度には Ureido-Nylon は28日要すると述べている。

（池田 忠夫）

絹糸虫類成虫の複眼の名称

八木誠政・小山長雄；ニュー・エントモロジスト，（信州昆虫学会）6（1）：5－14（1957）

従来から昆虫の複眼はその構造の複雑性から，部分の名称について統一性を欠き，その取捨を迷わせ，はなはだ研究上支障を来すことが多かつた。絹糸虫類の複眼の名称もその例外でなく，妥当でないと思われるもの，明らかに誤りと認められるものも少くなかつたのであるが，このたび著者らによつて広汎にその検討が加えられ，各部分の和名，欧語名の適語が選出された。形態学はすべての研究の基礎となるものでその点このような準拠すべき論著のなされたことはとおとい。今後絹糸虫複眼の研究に関係されるかた，または講義を担当するかたは著者らの提唱する命名に従われることが望ましい。

（滝 沢）

細胞化学シンポジウム第6集

日本細胞学会（勝沼精蔵編集）；丸善KK，pp. 281（9月，1957） ¥700

細胞に属している構成水準の一つとして注目されるものは光学的可視の範囲から，深く不可視範囲にひろがる多種類の顆粒その他の構造の水準である。これら構造中には物質貯蔵のような受動的役割をもつものもあるが，細胞の基礎的機能に積極的に働きかけるものもある。いまとくに後者についてみればそれら自身いく種類かの高分子を主体として成立つコンプレックスな構成をもち，自己増殖の可能性も否定できない。

こんごの生物学の重要な仕事の一つは，細胞の水準で起る各種の現象を各細胞構成要素の働きの総合効果として理解するであろう。物質代謝はもちろん，成長，分化のような発生的現象や各種病理現象もまた細胞水準でときあかされる日もそう遠い将来ではあるまい。

こうして，考えてくる場合，この細胞化学シリーズはまことに有意義な出版で，またその内容は斬新で，精密である。基礎問題にたずさわる研究者の一読にあたいする。

第6集は，

○緑色細胞の発育生理同調—培養による研究（田宮 博）
○紡錘体の細胞化学的研究（島村環・太田敬久・菱田富雄）
○細胞構成要素の発生に伴なう変化（柄崎修一）
○Microsome の高分子構造
○核酸は細胞のどこでつくられるか（三浦義彰・伊藤広雄）
○バクテリオフアージの増殖について（渡辺 格）
○組織細胞の多糖体合成について（武内坂男）
○細胞質の物理構造と機能（広田猛夫）

などからなる。ちなみにこれまでに刊行されたものはつぎのとおりである（第1集絶版，以下丸善在庫）。

第2集 発生と遺伝	¥ 400
第3集 界面の生化学	¥ 500
第4集 神経系統をめぐる諸問題	¥ 500
第5集 細胞の繊維構造	¥ 650

A. 繊維の形成ならびに構造
B. 細胞内繊維構造
C. 神経繊維
D. 核の繊維構造その他
E. 核分裂

（小 山）

遺伝と農学

有賀久雄；東京大学出版会 pp. 217（7月，1957）¥240

この本は著者が過去数年間にわたつて新聞・雑誌などに発表して来られたものをまとめたものである。遺伝と育種，ウイルスその他，農学研究のありかたの3章からなり，随所に教訓と示唆がある。もちろん学術書ではなく随筆集の香り高く，気軽によめ肩がこらない。

とくに〝蚕糸業のありかた〟に対するエッセイはわれわれの頑味すべき内容である。この本全篇に流れる科学的ヒューマニズムは，とりもなおさず著者の人格と素養を物語るものであり，著者のケイガイにじかに接したようなさわやかな後感がある。

（小 山）

Salon

二人三脚信濃の旅（続）

静岡県　戸倉八峰（蚕2）

三人旅＝前号に続いて信濃路夏の旅，二人三脚の旅紀行とは一体何の意味かであるが，一口に云えば文章の枕言葉と解釈すればそれまでだが，別の解釈は斯く斯くである。古語に三人旅はするものでない。必ずケンカ別れになると。恰も陸上競技にある二人三脚競走の様なもので仲々3人の意見が一つになり難く行動が一本化されず，マゴマゴする事が多くて日程が猫の眼の様に変つて駄目なもの殊に恐妻病（？）とは云わないが右に悪妻，左に勝手気儘の末娘の二人三脚の旅と来ては亭主関白煙つたいやら，不自由やらで閉口千万，例えば宴席などで少しお酒が過ぎそうになると，「もうこの辺で」と，節減のサインが送られ，勢いピンチを外すため自席を移動してお相手をすると左右からのサインがなくなり，遂にホームラン酒に脱線して一つや二つのエラーも出る可能性もあるが止むを得ぬ。

栗林宅へ＝この意味での私共二人三脚の旅は戸倉温泉の会合を終つて翌13日長野の善光寺に詣で一応善男善女の境地に踏み入り，ここから旧知旧友の悪男悪女と懐古談に花を咲かす事になつたが，岸太田，池田の旧静岡県在職者各位と再会の挨拶を交し，相共にバスで栗林悦兄の宅を訪れ，ここで畏友倉沢大人を加えて益々久方振りに一同歓談に時の移るも忘れ，相互いに健康を祝して乾杯した。感心なことに栗林夫妻はこの春頃「レンコン」旅行（新婚でもない旅行の新名）を兼ねて広島の山荘に小川保叛兄を訪ねて御見舞を敢行した由，想記す。40有1年前私は栗林兄の「カバン」持ちをしてその秋11月同君を訪問した事を〃府中の「恋しき」と云う料亭で1夜3人手飲したがお酌に出た美形を今でも思い出す。その女人が小川兄の○人か否かは知る由もない。少し横へ脱却したからハンドルを正道に戻します。…栗林さん富士山を見せますよ。

母校へ＝同宅を辞して一路上田の母校へ針塚元校長なき旧蚕専，なつかしきその一木一草，針塚老先生の銅像の前で往時をしのぶ，明治45年春入学の時に比べて樹木の大，校舎の増尚美事な裏庭の悪草の繁茂等昔日の比に非ざるに一驚三歎した。

丁度会議室で重要会議あつて30余人の諸兄会同中と聞き山口教授の口添もあつて少時間ながら末席を汚がさせて頂いたが千曲会員の壮老年の方々，居並ぶ顔振れは皆有名人のみ綺羅星の如しと云うべく，名刺を頂いた人丈でも，

農学博士　田口亮平
同　竹田　寛
助教授　坂口育三
同　松尾卓見
日本海外協会連合会　理事　碓氷　茂

（何れも敬称省略）

の新進気鋭の粒揃いの外，八木博士，蒲生博士等其他斯界の権威のみ。小生指名されるままに万歳を三唱して退散した。（碓氷兄との話の時，明春再度ブラジルのサンパウロへ出張さるる御予定も承る。その節は小生の娘，水谷妙子がその主人が日本郵船KKのサンパウロ駐在で続勤中，（その時も）と思うから，出発前御連絡乞う。）

三羽烏の写真で回顧＝ここで一挿話を記して置く。蒲生先輩とは立話した程度だつたが，同兄未だ老いず，精神青年40代と申しては御気嫌悪いかな，昔話も少し出たが同兄知るや知らずや。この写真？回顧すれば今を去る40有5年前校門を巣立つて東京中野の蚕業試験場へ3羽烏の入所として蒲生俊興，鶴田定平（度び度び御引合に出して恐縮）高須兵司が書生姿で生理部と桑樹部へ意気揚々として採用された。この写真がこの3羽烏と左端は松村季美博士，何れも青年学徒は我世の顔付，頼もしき哉であつたろう。但し1人20円4人計金80円也の人体であつたから一寸驚く。その当時，駒場の実科出25円，農学士30円也の相場だつたので皆フンガイする事一通りではなかつた。高須兄は今は無く，鶴田兄は郷里で健在，好きな町政に精進中と聞く各位この写真を見られて今昔の感一入深からんと察す。（以下次号）

老い楽

端居　膨石（旧職）

ちよいとサロンを覗くと，この頃だいぶ賑かになつて，耳の遠い老人も眼鏡さえかければ諸君の意気ほとばしるお話が聞かれます。これが千曲会館なら，室の隅に座つたんでは聞こえないし顔を出せば座中に押し出されて，てれ臭い思いをさせられそうだが，このサロンは真に気安く独り笑いもできて真にありがたい次第です。どうか久しぶりの先輩連も始めて知る若い方々も煙草の香りと共に大いに気煙をあげて老人を楽しませて頂きたい。お願い致します。そこで私も年寄りらしい座興を披露させて頂きましよう。

眼も耳もおぼろとなれるこの頃は
　夢路がたのしもとのままで
人生も末に近づき思い知る
　わがこしかたは喜劇のみして
焦熱の都会をのがれ来るわ来るわ
　片瀬一面ただ人の海
磯波を吹きよす風にさそわれて
　下り立つ足は砂に焼きつく
水着幾等身も押しなべて
　裸体美し居ながらに見る
自信なき人も片瀬に泳げかし
　心静けく悲観消えなん

千曲会御中

石倉新十郎（旧職）

特別活動資金がまだ¼とは心外ですなあ。恩給の7月分はもう傷めつけてしまつたので，この次10月分から金1千円差上げる予定でいます。

まだ今年位は生きていられそうですから確実に差し上げられると思います。10月6日が支給日です。それまでお待ちを願います。

創立50周年記念式典の寄付金は当てになりません。幸いに生きのびられたら楽しみです。千曲会報で実況説明を待つことといたしましよう。

世の中のことは原爆禁止がままならぬと似たように蚕糸界の将来も学校の成り行く先も人のみに関係なく移り行くらしい。

米ソのやることは米ソ自らがすることで日本や周りにはどうにもならないこと蚕糸界や学校の将来は反対に蚕糸界や学校自体にはどうにもならぬことで日本自体の将来に動く情況によるのだから早くそれを見定めて適応させるというものでしよう。

土地人の力によりて農業の
　先の栄えは生み出さるらめ

力の出し方が問題でしようね。

上田時代のこと

尾沢　敏男（糸22回）

学校を卒業してから既に20年余りになる。折にふれ上田時代のことを思い出すと，よい時代だつたとしみじみ感じる。昭和7年から10年にかけては，蚕糸業界にとつては余りよい時代ではなかつたように思うが，学生は適当な下宿を探し，親から学費を送つてもらつて勉強さえしていればよいのだから，とにかくのんびりしたものだつた。街の人達からは「専門の学生さん」といつて尊敬されるし，上田附近には温泉や景勝の地が多く，日曜日など遊びに行く処が豊富で，上田の生活には楽しい思い出のみが残つている。もつとも思い出というものは美化されるものらしいが。

私は3年間田町にある竹花という家に下宿をした。私の上田の3年間の生活の安らかさはこの下宿によつて保たれたような気がする。当時60才を越えたおばあさんと40才近い未婚の娘さんとの2人家族で，近所の縫物などをひきうけるかたわら学生の世話をしているような家で，林貞三先生，平沢勝氏，清水寛孝先生，林清市氏などの方々が下宿をされた家である。清水先生は尺八にタン能で，弟子である野口先生方がよく出入りされた。野口先生は当時厩裏に下宿をしておられ夜など黒紋附に腰に一管をたずさえて訪ねて来られたものである。清水先生は下宿の夜のつれづれに岐阜は垂井の里の御家族をしのび乍ら非常にむずかしいという註釈附の「残月」をよく吹いておられた。あの下宿も今はどうなつたことか，今度上田を訪ねる機会があつたら真先に訪ねてみたい。

当時学生は先生の家庭訪問をよくしたもので，時に寮生は退屈のままに友人と連れだつて諸先生の御家庭を訪問した。今考えれば随分御迷惑のことだつたろうと思われるが，当時は普通のこととして先生の方でも歓迎して下さつた。私は寮にいなかつたので先生の家庭訪問は割合少なかつたが，それでも2,3の先生方をお訪ねした。針塚校長は市役所のお近くで，さすが立派なお宅に住んでおられ，いつも何人かの学生がつめかけていたように思う。刀剣を鑑定しておられる処を傍にかしこまつて拝見させて頂いた記憶がある。端然とした古武士のおもかげがあつた。林貞三先生のお宅へも2,3度寄せて頂いた。先生の書サイには書架の他にベットとラジオがあつて，先生はラジオの経済ニュースに耳を傾けておられた。「諸君は新聞の経済面をよく理解しなくてはいけない。」との御注意があつて，私は確かダイヤモンド社から発行された「経済記事の基礎知識」という単行本を買つた。農業経済の早川直瀬先生のお宅へ伺うと，先生は毛センの上に座つて南画を描いていらつしやつた。画題は蘭で画の中の鉢に描かれた詩の文字がいかにも読めそうに見えるので，近よつてみると単なる点で南画というものは面白いものだと妙なことに感心したりした。亡くなられた絹糸化学の金子英雄先生は油絵をたしなまれたし，また金子先生の有機化学の教科書には俳句が取入れられている。当時は学生のみならず諸先生も悠々と夫々の御趣味を楽しんでおられたように思われる。そういえば学校には甘茶会なるものがあり，秋になると立派な絵や写真の展覧会が開かれ，会場にはこれも養蚕科の諸先生の丹精にかかる見事な菊花が一段と光彩をそえていた。やはりよき時代であつた。

勉強の方については余り思い出がなく恐縮であるが，教室における諸先生の記憶をたどつてみよう。林貞三先生の製糸学は自分達の専門学科だけあつて最も関心をもつた科目の1つであつたが，林先生は就職の方も担当しておられ，やはり何となくこわい先生であつた。堂々たる体軀を教ダンに運ばれ重々しい口調で「繰糸張力恒定の原理」などを講義された。御機嫌のよいときは眉をピクピク上下に動かされ乍ら郡是，片倉の経営方針を論ぜられた。大滝先生の材料強弱，ボイラーなどは一同の最も苦手とする処であつた。最近御病気でおひきになつた維田先生には統計を教えて頂いたが，最近会社で品質管理がうるさくなり推計学上の述語をきかされることが多いが，二昔前に習つた統計学が理解のたすけになつているのは有難い。何でもやつておくものだと思う。数学の内田浩先生の試験は変つていて，試験を受けているその場で答案を見廻り，出来ているとか違つているとか指摘して下され，とても進歩的な感じのする先生であつた。内田先生は御家族が東京におられ週末にはいつも東京へ帰られたが試験の答案は汽車の中で採点されると伺つた。物知りの話好きな先生で，今なら「話の泉」の常連たる資格が十分あるような方で，我々は休み時間には藤棚の下や常田池のほとりで内田先生から新知識を吸収した。はだか随筆的なお話には一同のり出してきき入つたものである。私達の卒業記念のアルバムには，「サイレンよ鳴らずにあれ」という名題の下に昼休みのひととき内田先生を囲んだ数人のグループの写真がある。

最後に現在の私の心境であるが，私は製糸科に学んだが，現在やつている仕事は合成繊維に関することであつて，絹からはすつかりはなれてしまつた。しかし最近の呉先生の論文など拝見すると絹のような天然高分子物の構造から合成繊維用ポリマーの合成あるいは紡糸方法などにつき示唆されることが非常に多いように思われる。ささやかな私の半生のアルバイトも上田で3年間学んだことが基礎になつていることを考えると上田の学校にはいくら感謝しても感謝しきれないような気がする。　〔1957年．秋分の日〕

社会悪と不健全娯楽

斎藤　義臣（蚕32）

経済白書は「戦後」は既に終つたと伝え，昨年は神武景気という相言葉すら日本の津々浦々に飛び出した。だがこれらの言葉をよそに強盗・殺人・詐欺・汚職・自殺・心中等々身の毛のよだつような事柄が毎日のニュースのほとんどを占めてしまつていることは否定できない事実である。

日本という国は貧富の差が大きすぎる。いな貧乏人が多すぎるのだ。完全失業者が70万人もい，潜在失業者も加えれば1千万人に近い人が正規の職につけないということである。乞食の国といわれた支那6億の民もイタリアの国も完全失業者がいないと聞くし，日本と同じように負けたドイツでは人が足りないで困つていると聞く。一体何故日本だけが駄目なのだろうか，わたしは敢えて政治の貧困を叫びたい衝動にかられてしまう。

人口過剰は日本だけではないし，頭脳も他国に劣つていないことも確だ。農業国としては農業経営が面積と技術の両面から失格だし，工業国としては先進国に劣等感をもつている。

戦前生糸と綿紡が世界を支配したことも，本当の力ではなく，その陰に人権を無視された農民と女工の低米価，低賃金がひそんでいたわけである。結局資本主義社会に互して正しい競走に勝つためには何か他に優越した特徴が必要であるが，日本にはそれがないのである。

役人が法律を肩に着て威張つていられる間日本という国は現在の哀れな状態をつづけるであろうことを思うとき愕然として日本人民であることを悲しむ外はない。

米国では1週5日労働で1日8時間，最低賃金1時間1ドルといつている。即ち最低のサラリーマンが6万円の給料をとつて8日間休日があるわけである。6万円といえば日本では優秀会社の部長級ではないか。

我国では1日100円でいいから使つて下さいといい，1日50円の内職に母子3人が夜半まで働いている状態である。同じ人間と生れ人間として生きてゆくのにこれでよいのだろうかと胸に手を当てる次第である。

こんなゆきづまつた，お先真暗な社会に誰が「正直は一生の宝」と，うそぶいて生きてゆかれよう。真面目に仕事すること自体が何のためにかわからない位になつてしまうのである。一生懸命働いても，土曜日，日曜日に外出する余裕がない，子供に服を着せれば親は食をつめなければならない。親戚のつきあいも，老いた父母に孝養もできないで，ただア[illegible]

〔7頁下段へつづく〕

創立50周年記念事業の大綱決定

第2回準備委員会開催

第1回委員会に引き続いて第2回委員会は9月28日午後2時より母校会議室に於て計画準備委員及び本部学内幹事等遠近あわせて54名の多数出席のもとに開催された。

先ず猪坂直一委員長より第1回委員会の決定により第2回委員会を開催し，重ねて審議し，立派な案を作り上げ力強く出発したい旨の開会の挨拶があり，続いて野口新太郎理事長より母校創立50周年記念事業は母校創立以来はじめて遭遇する最大の試金石である。そしてこの事業は千曲会としての最大の願いである。今まで10及び25周年記念事業をおこなってきたが，これに劣らぬような成果を収めたい。その為計画はあくまで慎重にせねばならない。そして計画をうち樹てた暁には断乎としてこれにうちむかい，計画倒れのないようにしたい。そしてこの事業は千曲会の発展及び千曲会精神高揚運動にまで重大なる影響を及ぼす。千曲会の内容と現状及び会員の感情をよく考えて最も適切なる計画を樹てる必要がある。本日は2年間に亘る計画に事実上の終止符をうちたいので十分に各角度より検討して良い案をうち出して頂きたいとの挨拶があって協議に移った。

協議事項は猪坂委員長議長となり，山口定次郎・母袋忠右エ門副委員長が副議長となって進められた。

先ず過般の第1回委員会で6つの原案にしぼられたが，その後各支会又は個人から寄せられた50周年記念事業の各種試案や意見等を加えて，今日までに提示されたものは次の通りである。（若林事務長報告）

50周年記念事業の各種試案

(1) 母校を中心とした事業を行う
金額の目標は500万円とする
……上小支会

(2) 母校の施設を充実する
……第1回案の(3)

(3) 優秀な卒業生を世に送るため育英資金をつくる。資金の目標は300万円程度……神奈川支会

(4) 放射線応用研究所を設置し将来本学部の附置研究所としたい
……第1回案の(4)
三井支会
福井支会
茨城支会

(5) 母校の科学振興を助成するための基金を造成する……学内意見

(6) 母校に放射線応用研究の如き施設を設置する……学内意見
但し金額の面で望み薄の場合は，母校職員や会員の学術振興基金とする。

(7) 記念時計台を設置する（20万円以内）残額があったら千曲会の基金とする
宮崎支会

（8頁につづく）

（6頁よりつづく）

セクとして食つているのみである。それも一時的なら我慢もしようが，何年でも一生でも楽しい人間らしい生活が出来ないのかと思うと失望の憂いが迫つてくるのみである。

こうした人の弱味につけこんだのが，不健全娯楽であろう。いわばバクチである。人間の欲望が真面目に働いていたのでは達成されないとなれば，何か一攫千金の手段はないかと目を見張る。高じてくると詐欺・強盗となるが，これの出来ない人は公然の賭博である競輪，競馬，競艇，パチンコ，麻雀などに夢を抱くのである。バクチの嫌いな人はヤケ焼酎で自己の哀れさを誤魔化し，家に帰つて弱い妻や子をどなり散らして寝るという具合である。

しかもこれらの賭博は初期の夢を打破つて地獄のどん底へ叩き落すのが普通であり，自分が沈めば沈むほどに，こんどこそはと熱が入り，熱が入れば入るほど理性が失われ，愈々窮地に追い込まれる。とどのつまりは人の物でも盗む以外に道はなくなつてくるのである。そこに強盗殺人があり喧嘩があるわけであろう。

こんな悪循環は心ある者は誰でもわかることである。そしてそれが不健全であり，次代を背負う子供の教育上もよくないこともわかりきつているはずである。だがそのテラセンによつて地方庁が財政を賄うから必要悪であるという如きことで，これを法律がかばつていることにこそ近代社会としての立遅れ憤りとを感ずるものである。

こうしたことに注ぎ込む捨銭（当人は何倍もにしようと投資したのであろうが）で，妻子と山なり川にハイキングにいつたらどれ程に健康で明るい文化人の楽しみが見出せようと思うとき，またこのために妻子がどれ程苦しんでいるか，このためにどれ程社会に悪が生れているかを併せ考えるならば，1日も早くこれらを廃止する運動が起きて然るべきではないだろうか。

競馬，競輪場を野球場，運動場にしたらどれだけ多く善良な市民が有効な恩恵を受け，それがひいては皆のためにプラスになることを何故皆が話合わないのだろう。俺はバクチはやらないから人のことは知らない自分勝手を云う人があるとしたら，余りにも視野の狭いことに同情する外はない。それは，廻り廻つて社会悪として自分に影響していることに気がつかないからである。

そもそも花札と競馬とパチンコと麻雀とトバクという意味でどれだけの差異があろうか。花札のみを法律で取締り，犯罪として罰していることを思うと，なおさら滑稽さを感ぜずにはおかないのである。

金があり余つて使い道がなくて，バクチを打つなら兎も角も，現在の日本の社会では少くともそういう人間は万に1人か2人であつて，多くはその日の暮しに困る人が，百円札1枚が何千何万になつて返えつてくる夢を実現しようとし，それによつてどん底の生活から一歩前進しようと血相をかえて賭けているのでありそれは楽しみどころか真剣そのものであり，命がけの仕事であるといつても過言でないのである。

それが真剣であればある程利益が多いということであるならばよいが，そんなことにはおかまいなしに勝負は矢の如く過ぎてゆき，ウツロな敗北感を握り，地だんだ踏んでくやしがつても取り返しはつかないのである。

百円を千円にも万円にも使おうとさせるような悪い夢を，今の日本の貧乏国でなぜ公然とやらせているのだろう。貧しければ貧しいほどに，それ相応の娯楽施設を国なり地方庁が考え出して，すさんだ人の心を柔げるべく真面目に考えてやるべきではなかろうか。

社会が悪いからそんな淋しい気持が出てくる。出てくるからそれを狙つて儲けようなどと弱い者いぢめをする社会は，その結果またそれから生じてくる悪によつて仇をとられているという馬鹿ごつこから1日も早く目覚めて健全な明るい社会を築くために努力を払うことを望んで止まないものである。

（週刊読売9月1日号の文明批評アンケートにおいても，あつて不要なものの第1位に不健全娯楽が指摘されていることは万人がこれを不必要と考えている証拠であろう）。

7頁よりつづく

(8) 財団法人繊維振興会を設立する。これで会員の研究助成を行う。
……第1回案の(1)
福井支会
茨城支会

(9) 学校に隣接した場所にホールを設置し，会員並に母校職員学生の使用にあてる。……学内意見

(10) 上田市に繊維会館を設立し，公開使用にあて，使用料は千曲会の収入とする。……(2)第1回案

(11) 東京及び出来れば関西に会館（宿泊所）を設立する。……学内意見

(12) 会員の厚生施設（職業斡旋，離職者月金)(制限つき）職業指導等の機関及び千曲会強化(千曲会報，支会と本会の連絡強化)のための基金とする。
……埼玉支会

(13) 東京にシルクギャラリーを設置する。……第1回案の(5)

(14) 南米に千曲会を中心とした養蚕農村を開拓し，附設蚕糸研究所を設置する。……第1回案の(6)

(15) 募金可能額を確実につかみ，目標と実際とに大きな隔りのないよう留意してもらい度い。……茨城支会

(16) 斯業の現状に鑑み多額の募金は困難であり，又遠慮すべきではないか。
……宮崎支会

協議に入り先ず東京支会より次のような議案が提出された。

1．50周年記念募金額
¥ 5,000,000
昭和35年達成　1口　500円

2．募金使途内訳
(1) ¥ 1,000,000（本資金は千曲会員及び賛助会員の寄付金の一部を之に充てる。）
記念式典費用
祭祀，学会，講演，出版，永年勤続者表彰（25年以上）50周年記念品
(2) ¥ 4,000,000
財団法人上田学術振興会に対する寄付金

3．財団法人上田学術振興会の設立
(1) 50周年記念事業として本会を創設する。
(2) 振興会は信州大学繊維学部及び千曲会と常に密接なる連繋を保ちつつ新たなる学術の研究に対し助成をなし又は研究の成果に対し表彰（千曲賞）を行う。
(3) 振興会は学術研究に必要なる設備をなし，又は研究をなすことを得る。
(4) 振興会寄付行為中に特に規定すべき事項
(イ) 評議員の選任については，人選及び員数について慎重を期すること
(ロ) 顧問及び参与は千曲会賛助会員及びその他の中より委嘱する
(ハ) 解散の際の残余財産は千曲会に帰属する
(5) その他
(イ) 振興会の基本財産の造成のために随時募金を継続すること
(ロ) 振興会が研究の助成及び表彰の対象とする者は，千曲会員及び賛助会員とする（運用内規）

続いて各支会及び個人の意見案が提出されたがその主なるものは次の如くである。

○50周年記念会館の設置を要望する。その中に標本を陳列し，研究資料も展示する。そして地域社会から信頼を受けるようにしたい。又その中には湯茶の接待，煙草，菓子等の販売もしたい。
○卒業生の就職斡旋を強化せねばならぬ蚕糸に関する内外の文献をあらゆる面から整備するような施設を切望する。
○募金額は出来うれば全会員から出せるようにしたい。記念時計台を設置し，残額を研究助成費に用いたい。
○多額な経費を要する記念事業はどうか記念事業としては同窓会自身の施設を設ける事が大切である。その為独自に宿泊所を設ける事は良い事である。
○放射線応用研究施設，学術振興機関，繊維会館を設置し，時代にふさわしいものをおこないたい。又施設を充実して修士課程の大学院をおけるようにしたい。
○記念事業は母校を中心にした事業と千曲会及び繊維界を中心とした事業の2つに分れる。この2つの点をどのようにまとめて行くかが問題である。
○母校の発展即ち千曲会の発展であるから学生ホールを設置し，財団法人にして基金を造成したい。
○放射線応用研究施設を拡大し，将来本学部の附置研究所としたい。
○国立大学の整理は近いうちにきっとあるから，その為にはこの大学独自の何かを持つ必要ある。とくに社会と学校の実状から就職問題を第一義と考え，南米開発によって卒業生の就職の途を開きたい。
○集った金は記念事業をやって有効に用いねばならぬ。その為記念時計台を作って，残りは千曲会発展の為，東京会館（宿泊所）を設けるがよい。

大体以上の如くであったが中論乙駁，極めて熱心な研究が行われたが，結局母校，千曲会といった両極端な案は淘汰され，次の如き結論に到達した。尚詳細具体的な立案をするため小委員会を設け，これに附託することに決定を見た。これによって事業の性格もかなり明確化され計画の進度が急転的に加速して来た。

1） 事業内容は東京案を基本とし，学校施設千曲会施設と限定せず，小委員会の立案に附託する。

2） 小委員の構成については委員長及び理事長に一任する。

委員の中に賛助員（母校の先生）も加える。また十分に地域卒業年次，学科等を参酌して決定する。

3） 小委員会の結論は10月下旬までに決定する。しかし，その結論はこの準備委員会をさらにもう1回開けて報告することなく，全委員には文書をもつて承認を求める。

終了後懇親会を開いてなごやかな一夕を送った。

尚本日の出席者は次のようである。

黒沢袈裟彦(群馬)	鈴木　教吾(東京)
井沢　喜三(上小)	鈴木　玄九(安筑)
島倉　督造(諏訪)	松岡　潔(竜川)
篠田平三郎(三重)	中島　茂(宮崎)
猪坂　直一(上小)	大山　融(北佐久)
香山　清和(上小)	桜井　吉邦(更埴)
斎藤　義臣(東京)	山本岩三郎(東京)
山崎　寿(安筑)	荻原　清治(学内)
田口　亮平(学内)	中島　邇(学内)
北条　舒正(学内)	町田　博(学内)
山口定次郎(学内)	野口新太郎(学内)
母袋忠右ェ門(上小)	竹内善吾(上小)
小口　宗久(諏訪)	土屋茂一郎(北信)
佐藤　一(上小)	伊藤要次郎(上小)
田島　信雄(東海)	川上　保人(上小)
碓氷　茂(群馬)	市川　文夫(上小)
蒲生　俊興(学内)	倉沢　美徳(学内)
林　直三(学内)	八木　誠政(学内)
小林　尚一(学内)	今井甲子男(学内)
石川　博(学内)	池田　忠夫(学内)
押金　健吾(学内)	小山　長雄(学内)
坂口　育三(学内)	清水　周(学内)
関　博夫(学内)	竹田　寛(学内)
田中　一行(学内)	田中　茂光(学内)
土屋　幾雄(学内)	松尾　卓見(学内)
三宅　賢(学内)	山崎　春録(学内)
若林　茂一(学内)	西山　久雄(学内)

会員の近況

北辺の千曲会

9月2～5日，〃日本遺伝学会〃が札幌で開催され，白沢幹先生(亀山製糸)西山市三先生(京大)内川勇先生(愛媛大)市川信一先生(蚕試)が御出席，これに地元から長瀬深見先生（農試）勝野貞哉先生(北大)が参加されたのを機会に一席をと云う話が持ち出され，本来ならば北海道千曲会支会主催の一大招宴を催おすべきところを微力，遂いに過分の会費を頂戴するの醜態ながら，兎も角も斯界のトップ・レベルの先生方のお話を承わる機会を与えられたことは何よりの幸い，辺地通寒の城外人には何よりも光栄であるしハイクラスのお話は身に泌みて滋養にもなり近来にない一夕を過さして戴いたことを先生方の消息に托してお知らせする。残念なりしは支会会員の出席の少なかつたこと，(これは幹事役の責任）〃日本遺伝学会〃と云うのに何故か千曲会の本家からの出席がなかつたと云うこと。会場は人数に合せた小ジンマリした小亭，成吉斯汗鍋を中心として若干の道産の料理が先生方の味覚に合いましたかどうか！知らず小生は街角に売る名物〃焼黍〃を噛り乍ら諸先生方遠路御旅行の恙なきことを念頭に，良き一夕を噛みしめ，噛みしめ学屋に辿り着きし次第である。(蕉)

会員動静　(10.4.現在)

頁数	氏名	卒回数	新住所
24	茂木　蕃	学蚕2	帯広駐屯部隊，第5補給隊（帯広市緑ケ丘）
33	中村　輝子	教　5	鐘紡，福知山工場（福知山市筒尾116）
34	弓田　弘	蚕　5	大沼農業高校退職
38	宮下　民雄	学蚕5	須藤製糸・松原工場（古河市・松原）
39	白石　金造	蚕　31	宇都宮市立瑞穂野中学校
59	平川　守	蚕　31	千葉蚕業試験場八日市場(住)千葉市登戸町5の71
61	岩根　恒徳	糸　13	小国蚕糸興業KK(福島県伊達郡桑折町)
64	掛川　好弘	紡　専	日本紡・検査協会に不在
67	佐土　孝	学化5	通産省特許庁審査第三部繊維　(住)中野区打越町6，信濃寮内
70	田中　宗一	紡　24	日本紡・検査協会本部（大阪市東区久宝寺町1の25）
79	宮本　貞男	農　1	長野県農地経済部農地課（長野市県町）(住)更級郡篠ノ井町表本町
88	清水　三郎	学紡3	東京都新宿区西落合2の509
115	関口　要	学糸3	小県郡傍陽村
117	滝沢　忠男	紡　20	(旧姓内藤)　小県郡丸子町尾の山
143	小林　久治	蚕　38	山辺中学校（松本市）
165	桐本他壽男	紡　9	呉羽紡・KK（大阪市東区本町2丁目28の1）
〃	滝口　昭三	紡　30	同　上
166	山本　周三	紡　23	同　上
175	永井　千治	紡　7	長野県繊維工業試験場（松本市栄町862）
184	前田　英成	化　7	沼津市常盤町2の11　佐藤栄次郎方
187	川上　道輔	学紡2	蘇東興業KK，佐野工場（佐野市堀米町）
190	下世古広志	紡　16	日本レイヨン宇治工場ナイロン製造部二課(住)宇治市善法1
202	中村　富男	学紡5	東洋レーヨンKK，瀬田工場
209	中川督一郎	糸　28	(住)大阪府池田市東市場町31　日立社宅
214	池田　滋	蚕　32	郡是労働組合，綾部市青野町
223	酒井　嘉美	蚕　17	片倉工業・青梅製糸所（東京都・青梅市）
225	福永　雄三	紡　17	同上・関製糸所（岐阜県関市）
232	川人　良次	紡　21	(住)徳島県阿波郡阿波町字勝命
234	小林　節子	教　4	内山製糸KKに不在
237	掛川　朝子	教　7	小県郡依田村上ノ組
〃	川村雄次郎	蚕　37	福岡県八幡農林事務所
249	緑間　武	糸　35	沖縄・胡差市山里区・プラザハウス前　沖縄鶏肉処理工場
239	水出　友雄	学糸4	芦屋航空保安事務所（福岡県遠賀郡芦屋町）

お知らせ

◎総会準備の為12月号は休刊致しますから御了承下さい。
◎年賀広告は11月25日までに御申込み下さい。
◎広告についてのお知らせ。
広告を出される方は次のようですからふるってお出し下さい。
広告料は　1頁4000円　半頁1500円　1/4頁800円　1/8頁500円
年賀，暑中見舞，住所移動，その他の挨拶　1駒100円

母校だより

○学部祭

恒例の学部祭として10月26，27日頃演劇・映画・ダンスパーテー・運動会等が多催に挙行される予定。

○学内食堂

近年県外学生が急増し，寮にあふれる者が多いのでこれ等の寮外生の便をはかる為学生ホールで食事が出来るよう改造される予定。

○事務長更迭

この程母校事務長が更迭され，前事務長福井卓氏は松本本部へ行くことになり，後任として本学松本病院事務長であつた清水運策氏が就任した。

○日本農芸化学会中部支部研究発表会10月19日に母校生物学教室に於て開催された。

○日本蚕糸学会中部支部昭和32年度研究発表会　11月8～9日母校の講堂及生物学教室に於て開催される予定。

尚その際における特別講演者及び演題は次の如くである。

イタリヤの蚕糸絹業について
　長野繊工試場長　工博　松本　介
中共の蚕糸業について
　長野蚕試場長　地引　嘉作
微量元素としてのモリブデンに関する研究―桑と蚕に対する実験を中心として―
　長野蚕試松本支場長　農博　山崎　寿

研究発表題数は60余題の多きに達するので極めて盛会が予想される。

千曲会告知板

本会日誌

9月9日　学内会員総会，集会者30名，山口理事座長となり，50周年記念事業について学内会員の意見交換を行う。
尚9月14日には学内会員も含めて上小支会の臨時総会があり同問題の協議を行つた。

9月19日　渡印される唐沢正平氏来校，会館でアジアの蚕糸業についての講話と渡印についての抱負を聞く。

9月28日　母校50周年記念事業計画準備委員会第2回会合，出席者54名
詳細は別記

10月2日　50周年記念事業計画小委員を依嘱する。9月28日の委員会に基いて，猪坂委員長，野口理事長に一任されたものである。

会費を納めて下さい

本会々計は非常に逼迫して参りました。出来るだけ速かに会費をお納め下さい。

尚，会費の納入についてはなるべく次の方法によつてお納め下さい。(1)支会で会費をとり纏めて下されば交附金(還付金)をさし上げます。(下表参照) 交附額を差引いて本部へ御送金下さい。 (2)振替御利用の方は，長野6243又は東京43341で。(3)昭和25年にさかのぼつて未納金を納めて下さる方は分納でも結構です。尚昭和32年から会費が300円になりました。

会費と交附額一覧表

項目＼年度	昭和24年	〃 25年	〃 26年	〃 27年	〃 28年	〃 29年	〃 30年	〃 31年	〃 32年
会費	100円	200	200	200	200	200	200	200	300
交附額	⅓	⅓	⅓	⅓	⅓	60円	60	60	100

特別活動資金 受領報告

(9月5日現在)

頭書に(3)とあるは第3回醵出者

金1000円
西沢正一(蚕21)

金900円
岡本栄一

金800円
重田正喜(蚕26)

(3)金600円
平沢和司男(糸24)
関与志雄(紡大1)

金500円
一之瀬徳治(紡21)

金300円
内藤俊雄(紡27)
関島郁夫(紡大4)
小池良介(糸36)
小沢実(糸大1)
丸山はる(旧教)

金200円
堀ノ内虎男(糸別1)
松村昌三(〃3)

会費領収

(9月5日現在)

昭和32年度会費金300円
鈴木玄九(糸18)
岡田薫(糸大3)
荻原孫三(蚕6)
鈴木俊夫(〃24)
小川保治(蚕別5)
及川英雄(蚕大1)
柳沢柳二(紡17)
西野礼(糸33)
丸山はる(旧教)
小山俊吾(糸10)
小沢実(糸大1)
松村昌三(〃3)
平沢和司男(糸24)
市村亘(糸大4)
倉沢一二三(蚕17)
河野太郎(蚕20)
渡辺正男(〃20)
窪田厚(蚕大2)
西村国男(蚕29)
中村馨(〃16)
山崎寿(〃14)
篠田平三郎(〃1)
伊部ミサ子(教6)
窪田潤(糸12)
宮田鉄五郎(〃2)
小原二一(化4)
藤井富美男(紡8)
村田鈴子(化大5)
所幸直(紡28)

昭和34年度会費
岡本栄一(糸15)

昭和33，34年度会費
小原二一(化4)

未納会費納入者

金1,500円
野田太郎(糸18)
大井忠幸(紡24)

金1,200円
西野礼(糸33)

金1,000円
杉本すい(教養3)

金700円
荻原孫三(蚕6)

金600円
井本俊一(蚕30)

金400円
柳沢柳二(紡17)
丸山はる(旧教)

金200円
及川英雄(蚕大1)
小山俊吾(糸10)
小池良介(〃36)
小沢実(糸大1)
堀ノ内虎男(糸別1)
松村昌三(〃3)
伊部ミサ子(教6)

金100円
所幸直(紡28)

(9月30日現在)

昭和32年度会費金300円
竹内正司(糸30)
細川驍(〃38)
藤田昌利(糸大2)
宮下民雄(蚕大5)
春原行雄(教養9)
奥田房江(糸別4)
原田種亀(蚕9)
香山登(〃20)
熊谷恒次(〃16)
白川孝昌(〃19)
中山員雄(〃33)
岡村保(蚕別4)
二木猪一(蚕8)
水沢久成(〃37)
山野井文夫(〃専)
永田平(〃8)
山崎勝巳(〃20)
猪坂直一(〃6)
小松茂久(〃9)
石川光也(糸別4)
小野昭夫(蚕35)
北村誠志(糸大1)
松本守人(蚕別5)
上条敬典(蚕大2)
高木信雄(紡15)
原泰造(〃30)
西沢秀夫(糸36)
横内入一郎(蚕24)
宮入一雄(糸5)
矢口徹(蚕大1)
横沢信雄(糸別1)
伝田邦雄(糸37)
岡村奨(農4)
宮沢清志(化5)
藤本衛佐雄(蚕16)
石井謙三(糸11)
加藤秀次郎(化1)
加藤達雄(〃6)
三村寛一(蚕32)
岡亨四郎(紡11)
永井千治(〃17)
若林衛(紡21)
荻原理宏(化6)
堀米吉寿(糸35)
吉田惠子(教7)
乾哲夫(蚕37)
柳沢薫(糸大3)
江口嘉清(蚕22)
渡辺昭典(〃37)
中島茂(〃11)
金子寿夫(化8)
福島鋼次郎(糸12)
小山祖光(〃16)
水島覚(〃17)
熊谷省次郎(〃38)
中島章夫(蚕大3)
堀内米子(教7)
坂本勝三(蚕23)

未納金費納入者

金800円
金子寿夫(化8)

金400円
坂本勝三(蚕23)

金200円
原田種亀(蚕9)
小野昭夫(蚕35)
上条敬典(蚕大2)
江口嘉清(蚕22)
渡辺昭典(〃37)
中島茂(〃11)
熊谷省次郎(糸28)

特別活動資金 受領報告

(9月30日現在)

金500円
猪坂直一(蚕6)

〃300円
高橋俊雄(糸38)

〃 〃
小野昭夫(蚕35)

編集後記

天高く菊香薫る秋冷の候となりました。今年は炎暑の日も少なかつたとはいえ，住みよい今日この頃となり一息入れておられる事と思います。読書のシーズンとなり，この秋の夜長にどしどし千曲会報に御投稿下さるのを編集員一同心よりお待ち申し上げております。

母校は今や創立50周年になんなんとして，その記念事業の計画に委員長はじめ準備委員は日夜奮励努力しておりますが，その大綱も来る第18回の総会には決定致しますので，同窓生全員一致団結してよりよき成果を収めることのできるよう切に希望してやみません。

12月号は休刊となりますので1957年度の千曲会報は事実上本号で最終号となるのですが，来年度は勿論のこと，将来共会員諸氏は本会報の益々隆盛たらしめるよう御援助下さることをお願い致します。そして千曲会報の発展こそ千曲会の隆盛を裏書きする一要素であると信じております。

明年度の皆様の御活躍と千曲会への御協力を心よりお願い申し上げます。(西山記)

編集理事 田口亮平
編集総務 小山長雄
部員 石川博 中原武
芙蓉津利正 清水周
柳沢幸雄 西山久雄